

鹿島技研 飯塚に新工場完成

建築資材製造 半導体設備投資にも対応

6月から本格操業 本社機能移転へ



① 飯塚市に完成した鹿島技研の新工場

② 新工場であった竣工式

ヤマエグループホールディングス（HD、福岡市）の子会社で、建築資材製造

「鹿島技研」（嘉麻市）の新しい工場と本社事務所が、

飯塚市有安に完成した。生産能力を従来の2倍近くに

引き上げ、熊本県など九州で相次ぐ半導体関連の設備

投資の需要にも対応する。6月からの本格操業に向け、

約20人を新規雇用。今後も採用を増やす計画だ。

同社は工場や倉庫向けの型枠などを製造。新工場は嘉麻市内にあった3工場の

老朽化に伴い、移転集約するもので、近く本社機能も飯塚市に移す。2022年にヤマエHDと飯塚市が立地協定を結んだ。

約3万平方メートルの敷地には、新工場と2階建て本社事務所の2棟があり、延べ

床面積は計約9900平方メートル。工場内には新型の製造

装置に加え、旧工場の2倍となる十数基の大型クレー

ンを配置。輸送用の大型車両が直接、工場の中に入っ

て荷積みができるように設計し、品質や作業効率を高

める。売上高は21年度の約20億円から26年度までに50億円を目指す。

新工場は3月22日であった竣工式には、同社の関係者や武井政一・飯塚市長

らが出席。ヤマエHDの大森礼仁社長が「新工場を基

点に業容を拡大するとともに、地域に貢献できる会社

を目指したい」とあいさつ。武井市長は「雇用の創出や

地元企業との取引拡大、地域経済の活性化に大きな可能性を感じる」と述べた。

（坂井彰太）